

難関資格の最短ルート、

アガルート

|受|講|相|談|限|定|

最短合格 学習ガイドブック

中小企業診断士試験

中小企業診断士試験

合格ハンドブック

AGAROOT ACADEMY

目次

第1部: 中小企業診断士試験の全体像と学習の基本戦略

1. 中小企業診断士とは
2. 中小企業診断士試験の概要
3. 試験科目と配点
4. 合格に向けた学習戦略の要点

第2部: 合格へ導く学習カリキュラム戦略

- STEP 1: 最重要3科目の基礎を固める
- STEP 2: 知識を広げ、2次試験を意識する
- STEP 3: 全科目の完成と実践演習

第3部: 合格後のキャリアと実務

1. 組織内での活躍(勤務)
2. 独立開業という選択肢
3. 先輩合格者の声

第1部: 中小企業診断士試験の全体像と学習の基本戦略

1. 中小企業診断士とは

- 経営コンサルタント唯一の国家資格
中小企業診断士は、「中小企業支援法」に基づく国家資格です。中小企業の経営課題に対して診断や助言を行う専門家であり、「国が認めた経営コンサルタント」と言えるでしょう。単なる知識の証明に留まらず、実践的なコンサルティング能力を国が証明する、信頼性の高い資格です。
- 社会的役割と魅力
日本企業の99.7%を占める中小企業の成長を支える、非常に社会的意義の大きい仕事です。企業の経営戦略、財務、マーケティング、人材育成など、経営全般にわたる深い知識を活かし、企業の成長をナビゲートする役割を担います。経営者から直接感謝されることも多く、大きなやりがいを感じられるのが魅力です。
- 資格取得後のキャリアパスと将来性
キャリアパスは大きく分けて2つあります。
 1. 企業内診断士: 企業に所属し、企画、営業、マーケティングなどの部署でその専門知識を活かし、キャリアアップや昇進・昇給を目指します。

2. 独立診断士: コンサルタントとして独立開業します。経営コンサルティングだけでなく、講師や執筆活動など、活躍の場は多岐にわたります。
企業のDX推進や事業承継など、中小企業を取り巻く経営課題は複雑化しており、専門家である中小企業診断士の需要は今後ますます高まると予測されています。

2. 中小企業診断士試験の概要

- 受験資格と試験スケジュール
年齢、学歴、国籍などの受験資格の制限は一切ありません。誰でも挑戦できる開かれた試験です。試験は第1次試験(マークシート式)と第2次試験(筆記・口述)の2段階選抜で、年に1回実施されます。
 - 第1次試験:
 - 申込期間: 例年4月下旬～5月下旬
 - 試験日: 例年8月上旬の土日2日間
 - 合格発表: 例年9月上旬
 - 第2次試験:
 - 申込期間: 例年9月上旬～9月下旬
 - 筆記試験日: 例年10月下旬の日曜日
 - 口述試験日: 例年1月下旬の日曜日
 - 最終合格発表: 例年2月上旬
- 近年の試験結果(第1次試験)
近年の第1次試験の結果は以下の通りです。毎年多くの方が挑戦しますが、合格率は30%前後で推移しており、十分な対策が必要です。

年度	申込者数	受験者数	合格者数	合格率
2023年	26,190人	18,641人	5,521人	29.6%
2022年	24,778人	17,345人	5,019人	28.9%
2021年	24,495人	16,057人	5,839人	36.4%
2020年	20,169人	11,785人	5,005人	42.5%

2019年	21,163人	14,691人	4,444人	30.2%
-------	---------	---------	--------	-------

- 合格基準
合格するためには、以下の2つの基準を同時に満たす必要があります。
 1. 総得点が満点の60%以上であること。
 2. 1科目でも満点の40%未満の科目がないこと(「足切り」と呼ばれます)。
- つまり、全科目でバランス良く得点する能力が求められます。苦手科目を作らないことが重要です。

3. 試験科目と配点

第1次試験は7科目あり、それぞれ100点満点です。第2次試験は、第1次試験の知識を応用する実践的な事例問題が出題されます。

- 第1次試験の科目構成

	試験科目	試験時間
1日目	経済学・経済政策	60分
	財務・会計	60分
	企業経営理論	90分
	運営管理(オペレーション・マネジメント)	90分
2日目	経営法務	60分
	経営情報システム	60分

	中小企業経営・中小企業政策	90分
--	---------------	-----

- 最重要科目
特に「企業経営理論」「財務・会計」「運営管理」の3科目は、第2次筆記試験に直結する最重要科目です。これらの科目を重点的に学習し、深く理解しておくことが、最終合格への鍵となります。
- 各科目の学習内容
 - 経済学・経済政策: ミクロ経済学(市場、消費者・生産者行動)とマクロ経済学(GDP、物価、金融政策)の基本を学びます。
 - 財務・会計: 企業の財務諸表を読み解く力や、投資判断の手法など、企業の財務活動に関する知識を習得します。
 - 企業経営理論: 経営戦略論、組織論、マーケティング論の3分野から構成され、企業経営の根幹をなす理論を学びます。
 - 運営管理: 生産管理(工場の生産性向上など)と店舗・販売管理(小売業の店舗運営など)について学びます。
 - 経営法務: 会社法を中心に、知的財産権や倒産法など、企業経営に関わる法律知識を学びます。
 - 経営情報システム: ITの基礎知識、情報システムの活用、情報セキュリティなど、経営と情報技術の関係を学びます。
 - 中小企業経営・中小企業政策: 中小企業白書の動向や、国・自治体の中小企業支援策について学びます。暗記が中心の科目です。

4. 合格に向けた学習戦略の要点

- 学習時間と基本サイクル
 - 標準学習時間: 合格までに必要とされる学習時間は、一般的に約1,000時間とされています。1年間で合格を目指す場合、1日あたり2.5～3時間の学習を継続する必要があります。
 - 学習サイクル: 最も重要なのは、知識を詰め込む「インプット」と、問題を解く「アウトプット」を高速で繰り返すことです。テキストを読んだらすぐに対応する過去問や問題集を解き、「わかる」を「解ける」レベルに引き上げましょう。
- 科目別の攻略法
 - 特徴的な出題形式への対策(第2次試験): 第2次試験は、企業の状況を記した長い文章(与件文)を読み解き、課題を分析して100字程度の文章で解答する記述式の問題です。これは一朝一夕では身につきません。第1次試験の学習段階から、常に「なぜそうなるのか?」という理論の背景を意識し、自分の言葉で説明する訓練をすることが有効です。
 - 基準点(足切り)対策: 苦手科目で40点未満を取ってしまうと、たとえ他の科目が高得点でも不合格になります。特に、文系の方は「財務・会計」「経営情報システム」、

理系の方は「経営法務」などが苦手になりがちです。苦手意識のある科目こそ、基本的な問題を確実に解けるように反復練習し、最低でも40点以上を確保する学習計画を立てましょう。

- 各科目の対策:
 - 企業経営理論、運営管理、財務・会計: 2次試験に直結するため、時間をかけて深く理解しましょう。理論の丸暗記ではなく、具体例をイメージしながら学習を進めるのがコツです。
 - 経済学・経済政策: グラフや計算問題が多いため、実際に手を動かして解く練習が不可欠です。
 - 経営法務、経営情報システム: 専門用語が多いですが、出題範囲は比較的限定されています。過去問で頻出の論点を中心に効率よく学習しましょう。
 - 中小企業経営・中小企業政策: 直前期の暗記が中心になります。細かい数字を問われることも多いため、繰り返しテキストやまとめノートを見返しましょう。
- 近年の出題傾向と応用力の強化
近年の試験は、単に知識を暗記しているだけでは解けない、現場での対応力を問うような「応用問題」が増える傾向にあります。未知の問題に直面したときに、これまで学んだ知識をどう活用して答えを導き出すか、という「現場思考力」が試されます。
この「応用力」を養うためには、基本的な学習が一通り終わった後、少し難易度の高い問題集に挑戦したり、過去問を解く際に「もし自分がこの企業のコンサルタントだったらどうするか?」という視点で深く考える癖をつけることが有効です。

第2部: 合格へ導く学習カリキュラム戦略

第2部では、アガルートアカデミーの講座を活用して、中小企業診断士試験の合格を勝ち取るための具体的な学習カリキュラムと、各講座の効果的な使い方を解説します。指定されたステップに従って学習を進めることで、知識ゼロからでも着実に合格レベルに到達することが可能です。

STEP 1: 最重要3科目の基礎を固める

まずは、2次試験にも直結する最重要科目である「企業経営理論」「財務・会計」「運営管理」から学習をスタートし、盤石な基礎を築きます。

- 使用講座
 - 入門総合講義
- 学習方法
 - 「入門総合講義」の「企業経営理論」「財務・会計」「運営管理」を視聴します。
 - 講義を1つ視聴したら、すぐに「1次試験対策過去問集」の該当範囲を解く、というサイクルを徹底してください。インプットとアウトプットを高速で繰り返すことが、知識を定着させる最短ルートです。

STEP 2: 知識を広げ、2次試験を意識する

重要3科目の学習を継続しつつ、他の科目にも着手し、知識の幅を広げていきます。同時に、早い段

階から2次試験の全体像を掴み、学習の質を高めることが重要です。

- 使用講座
 - 入門総合講義
 - 1次試験対策過去問集(テキストのみ)
 - 2次試験 戦略講座
- 学習方法
 - STEP1で視聴した3科目の「1次試験対策過去問集」を解き進め、知識を盤石なものにします。間違えた問題は必ず講義テキストに戻って復習しましょう。
 - 並行して、「入門総合講義」の「経済学・経済政策」「経営法務」「経営情報システム」の視聴を開始します。これらの科目も、講義視聴と過去問演習をセットで行います。
 - この段階で「2次試験 戦略講座」を視聴します。2次試験のゴールイメージを掴むことで、「この知識は2次試験でどう活かされるのか」という視点が生まれ、1次試験の学習がより深く、実践的になります。

STEP 3: 全科目の完成と実践演習

1次試験の全科目を完成させ、総復習と実践演習に入ります。本番を見据えた最終調整と、2次試験対策の本格的なスタートを切る段階です。

- 使用講座
 - 入門総合講義
 - 1次試験対策過去問集(テキストのみ)
 - 1次試験 模擬試験
 - 2次試験過去問解説講座
- 学習方法
 - 最後の科目である「中小企業経営・中小企業政策」の「入門総合講義」を視聴し、過去問演習を行います。
 - 全科目のインプットが完了したら、全範囲の「1次試験対策過去問集」を繰り返し解き、知識の漏れをなくしていきます。
 - 1次試験の直前期には「1次試験 模擬試験」を活用し、時間配分の感覚を掴み、本番形式に慣れます。
 - 学習に余裕があれば1次試験前から、なければ1次試験終了後すぐに、「2次試験過去問解説講座」に取り組みます。まずは自力で過去問を解き、その後で解説講座を視聴して、合格答案の作成プロセスを学びます。

第3部: 合格後のキャリアと実務

最終関門を突破し、中小企業診断士としての資格を手にした後には、多岐にわたるキャリアの可能性が広がっています。第3部では、合格後のキャリアパスと、それぞれの道で成功するために必要なスキルについて解説します。ご自身の未来を具体的に描くための一助となれば幸いです。

1. 組織内での活躍(勤務)

資格取得後、まず多くの人が選択するのが、企業や事務所などの組織に所属して働く「企業内診断士」としての道です。安定した基盤の上で、実践的な経験を積むことができます。

主なキャリアパス

- 同業の事務所: 先輩の中小企業診断士が経営するコンサルティングファームや事務所に勤務します。指導を受けながら多様な案件に携わることで、コンサルタントとしての基礎体力や実務ノウハウを体系的に学ぶことができます。将来の独立に向けた修業の場として選ぶ人も少なくありません。
- 関連分野の専門事務所: 弁護士、公認会計士、税理士、社会保険労務士などが所属する事務所働くケースです。それぞれの専門家とチームを組み、経営と法務、経営と会計・税務といった複合的な課題解決に取り組みます。他の専門資格とのダブルライセンスを目指す上でも有益な経験となります。
- 一般企業の専門部署: 事業会社の経営企画、マーケティング、財務、人事といった部署で、診断士として培った専門知識を活かします。自社の経営課題を内部から分析し、具体的な改善策を立案・実行する役割を担います。経営層に近い立場で仕事をする機会も多く、キャリアアップに直結しやすいのが特徴です。

組織で勤務するメリット

最大のメリットは、安定した収入を得ながら、リスクを負うことなく実務経験を積める点です。特に、コンサルティング未経験の場合、いきなり独立するのは簡単なことではありません。組織に所属することで、教育を受け、多様な企業の事例に触れながら、着実にスキルを磨くことが可能です。

2. 独立開業という選択肢

自らの裁量でビジネスを展開したいと考える人にとって、独立開業は非常に魅力的な選択肢です。中小企業診断士は、その資格名を活かして自身の事務所を構えることができます。

独立開業の魅力と求められるスキル

- 魅力: 働く時間や場所、受ける仕事の内容を自分で決められる自由度の高さが最大の魅力です。成果が直接収入に結びつくため、年収1,000万円以上、中には3,000万円を超える収入を得る人もいます。また、定年がないため、生涯現役で専門家として社会に貢献し続けることができます。
- 求められるスキル: 独立診断士には、中小企業の課題を解決する高い専門能力はもちろんのこと、自身の事業を運営する「経営者」としてのスキルが不可欠です。具体的には、自ら仕事を見つけてくる「営業力」、人脈を築き、維持する「コミュニケーション能力」、そして事務所の収支を管理する「経理・財務の知識」などが求められます。

開業までの一般的な流れ

1. 中小企業診断士としての登録: 試験合格後、実務補習を修了または診断実務に従事し、経済産業大臣への登録手続きを行います。
2. 事業計画・準備: 事務所のコンセプト、ターゲットとする顧客層、提供するサービス内容などを固め、事業計画を作成します。並行して、事務所の開設場所やPC、名刺などの備品を準備

します。

3. 開業届の提出: 税務署に開業届を提出します。
4. 営業活動の開始: 中小企業診断士協会や地域の商工会議所、金融機関などとの関係を築きながら、自身の専門性をアピールし、顧客獲得に向けた営業活動を開始します。

独立してすぐに成功できるとは限りません。そのため、まずは企業内診断士として働きながら人脈や経験を蓄え、満を持して独立するという慎重なキャリアプランを描く人が多いのも事実です。

3. 先輩合格者の声

ここでは、様々な環境で学習し、見事合格を勝ち取った先輩方の体験談をケーススタディとしてご紹介します。

ケース1: 働きながら着実に合格したAさん(30代・メーカー勤務)

- 学習スタイル:
平日は通勤中の電車で講義動画を視聴し、昼休みや帰宅後の1~2時間で過去問を解くというサイクルを徹底。休日は図書館を利用し、まとまった学習時間を確保していました。
- 合格の秘訣:
「アガルトの講義は1チャプターが短いので、隙間時間でも集中して学習できたのが大きかったです。特に2次試験対策では、講師の思考プロセスを何度も確認し、自分の解答と比較検討することを繰り返しました。難しい論点に深入りせず、テキストに書かれている基本を完璧にすることを心がけました。」
- 後輩へのアドバイス:
「仕事との両立は大変ですが、学習を習慣化できれば必ず道は開けます。自分を信じて、コツコツと前に進んでください。」

ケース2: デジタルツールを駆使し効率的に合格したBさん(40代・管理職)

- 学習スタイル:
多忙な業務の合間を縫って学習時間を捻出するため、講義動画は常に1.5倍速で視聴。テキストはPDFをタブレットに入れ、気になった箇所はすぐに検索・確認できるようにしていました。過去問演習の記録もアプリで管理し、苦手分野を可視化して集中的に復習していました。
- 合格の秘訣:
「とにかく反復学習が重要です。特に1次試験は、過去問を最低5回は繰り返しました。同じ問題を何度も解くことで、知識が定着し、解答のスピードも格段に上がりました。デジタルツールのおかげで、重いテキストを持ち歩ずに済んだのも、学習を継続できた要因です。」
- 後輩へのアドバイス:
「合格に必要なのは才能ではなく、正しい方法で努力を継続することです。カリキュラムを信じて、最後までやり抜いてください。」

ケース3: 短期間の集中学習で一発合格したCさん(20代・大学院生)

- 学習スタイル:

学習に専念できる環境を活かし、1日8時間以上の学習時間を確保。午前中にインプット(講義視聴)、午後に出プット(過去問演習)、夜にその日の復習というリズムを確立し、短期集中で知識を詰め込みました。

- 合格の秘訣:
「学習範囲が広いので、手を広げすぎないことを意識しました。アガルートの教材に絞り込み、それ以外のものには一切手を出しませんでした。特に、2次試験対策は早めに着手し、1次試験の勉強と並行して事例問題に慣れるようにしたのが良かったと思います。」
- 後輩へのアドバイス:
「『絶対に一回で合格する』という強い気持ちが必要です。短期決戦を目指すなら、学習計画を綿密に立て、それを愚直に実行することが合格の鍵だと思います。」